

草地雑草メドウフォックステイル(黒穂)対策について

胆振農業改良普及センター東胆振支所

1 はじめに

メドウフォックステイル(MFT：黒穂)は牧草地に侵入する多年生のイネ科雑草です。東胆振地域では主に海岸に近い地域で発生を確認しています。嗜好性・栄養価が低いため発見したら拡大防止あるいは防除の対応を行ってください。

2 メドウフォックステイルの見分け方

MFTはチモシーより出穂が早いです(図)。5月中下旬(早い場合は5月上旬)にチモシーに似た穂が出ていれば、MFTの可能性が高いです(写真1.2)。詳しい同定方法は普及センターにご連絡ください。

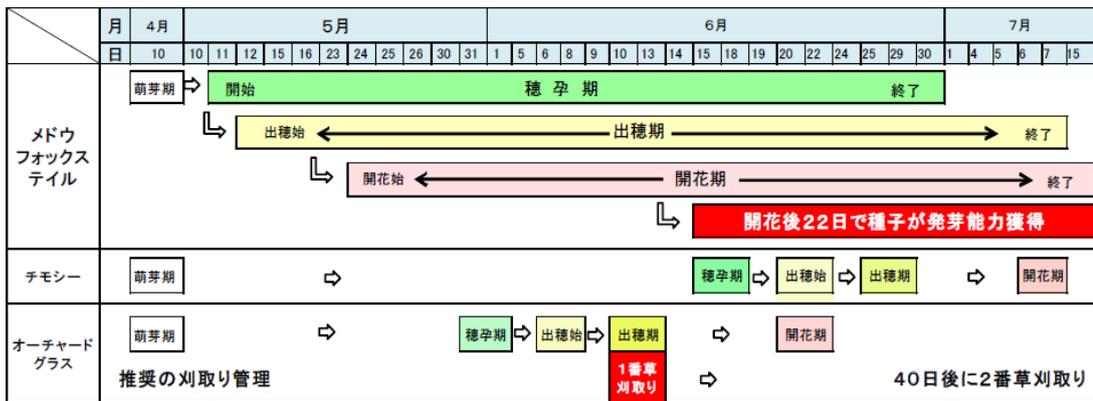


図 メドウフォックステイル、チモシーおよびオーチャードグラスの生育期節。(道総研より引用)



写真1 出穂したMFT(5月2日:むかわ町)



写真2 MFTが優占している草地(5月2日:むかわ町)

3 メドウフォックステイルを見つけた場合

【MFTの拡大を防ぐために】チモシー草地で6月中下旬に収穫を行う場合には、MFTは既に発芽能力を獲得していると予想されます(図)。そのため収穫残渣に付着したMFT種子を拡散させないように作業機械を掃除する、あるいは発生ほ場を最後に収穫するなどの対応を行ってください。

【侵入したMFTを防除する場合】 飼料生産の環境に応じA、B、Cの順にいずれかを選択してください。

A: 飼料用とうもろこしを2年以上作付けし、除草剤ニコスルフロンをういた茎葉処理を行う。

B: 草地更新時にグリホサート系除草剤で、前植生1回および翌年播種床処理2回行い、オーチャードグラス早生品種を播種して、適期収穫を行う。

C: 草地更新前の直近の2年以上、MFT種子が発芽能力を持つ前に早期刈取りを行い、前植生および播種床にグリホサート系除草剤処理して牧草を播種する。